令和元年度第３回青梅市美術館運営委員会会議録

令和元年１０月３１日（木）
青梅市立美術館研修室
会議時間 14:00～15:57
出席者　委員７名、教育長
教育部長、事務局４名

１　開　会
２　教育長あいさつ
３　議題
　(1) 令和２年度青梅市立美術館事業計画（案）について　〈了承〉
４　報告事項
　(1) 特別展「中島潔　新しい風―希望　明日へ生きる―」の開催結果について　〈了承〉
　(2) 青梅市立美術館の臨時休館について　〈了承〉
　(3) 美術館と郷土博物館の複合化検討の進捗状況について　〈了承〉
５　その他
　次回委員会開催日程の調整
６　閉会

〔 主な質疑・応答・意見（報告事項・協議事項について)〕
〇令和２年度青梅市立美術館事業計画（案）について
（委　員）来年度第１回目の展覧会として、水戸市立博物館が所蔵している五百城文哉（いおきぶんさい）の水彩画展を予定していることで、水戸市とは梅サミットのつながりもあるとの説明があったが、梅サミットとは何か。
（事務局）梅サミットとは、梅を観光や産業として取り組んでいる全国の市町村が年に１回集まって観光事業等の情報交換などを行う会議である。その関係を文化事業に繋げていこうと、平成 27 年に湯河原町の美術館と梅サミットに絡んだ展覧会を初めて実施した。来年度は、偕楽園など梅の名所で知られる水戸市から五百城文哉の絵画をお借りして、梅サミットに絡めた展覧会の第２弾を行おうと考えている。
（委　員）版画の展覧会を開催するに当たり、はめ殺し状態で保存されているものや額装されていない作品も多く、新たに額とマットの新調を余儀なくされていると説明があった。版画などは額を外して本体をボック

ス内に保存し、汎用額を用意して入れ替えた方が省スペースになるかと思うがどうか。

（事務局）版画と水彩画でマッティングされて入れ替え可能な作品は千点ほどあるが、マットの切り方に統一性が無いため、省スペース化を図ろうとすると、マットの切り直しから始めなければならない。経費的、時間的な課題があり、早急には困難である。

（委　員）今年度予定していた燻蒸消毒が、業者の履行不能で実施できなくなったことだが、条件が合えば、どこでも入札できるのか。また、ＩＰＭという虫の生息を調べ、嫌がる薬剤を散布し虫を入れなくする方法もあるが、実施していないのか。

（事務局）燻蒸消毒は、どこでもできるような業務ではないので、指名競争入札で行っているが、今回の業者は、その能力が伴っていなかった。また、ＩＰＭについては、昨年度予算要求したが、見送られた。

○特別展「中島潔　新しい風―希望　明日へ生きる―」の開催結果について

（委　員）企画は「アトリエうめ」が実施しているのか。

（事務局）「アトリエうめ」は、中島潔さん個人の事務所で、「アートカフェ」が中島潔展の企画会社である。当館がこれまで企画会社から企画を買って開催した展覧会は、昨年開催した「ダンボールアート遊園地」が初めてで、今回が２回目である。また、事務の進め方の違いはあるが、企画会社からグッズを買って販売するといったことも実施した。

（委　員）特別展の期間中に実施した親子向け実技講座「オリジナル“デコトラ”づくり」で、申込者の無断キャンセルがあり、用意された材料が余ってしまったとのこと。今回は電子申請での応募方式で、市が電子申請を推奨するのであれば、無断キャンセルが防止できるようなマニュアル等を整備すべきであろうと思うがどうか。

（事務局）当日子供の具合が悪くなり来られなくなったという電話が１件、メールが届かなかったという人が１件、もう１件は無断キャンセルであった。今後どのような問題が出ているか、全庁的に集約し、検討していく必要があると考えている。

○青梅市立美術館の臨時休館について

（委　員）臨時休館中に実施するデータの整備はとても大事なことで、いい加減なものとか間違ったデータを見逃すと、延々と間違ったものが使われ続けるので、大事な作業である。収蔵作品を管理するデータベースで何らかのシステムを使っているのか。

（事務局）データの管理は、エクセルで行っているのみで、システムは導入し

ていない。今後システムを導入する場合は、保存データをコンバートして対応したいと考えている。

○美術館と郷土博物館の複合化検討の進捗状況について

（委　員）中々先行きは多難であるとしか申し上げられないが、情報を整理してそろそろ方向性を出していただき、委員の皆さんが時間を割いてお越しいただいているので、複合化の検討に何か道筋を付けなければならないのではないかと思うがどうか。

（委　員）エレベーターの不具合については、収蔵品の安全な保管の前に、来館者の安全が脅かされているのではないかと思う。さらに、安全面を最優先にするのであればエレベーターは使わない方がいいとも思う。美術館の建物自体が古いので、いろいろな投資はできないと市では考えていると思うが、何を一番大事に運営し、何十年間どのような運営をされてきたのか。これから、どのような事をやるために美術館をつくるんだ、博物館と一緒にやるんだというところは、今ある美術品を後世に残し皆さんに見てもらうことを大事にするのであれば、ほかにもいろいろな方法もあったのかなと、この会議に参加するたびに思う。これから先の事を考えるとき、人は災害があると最後は生きるために必要なことを求めるが、文化は次に生きていく力になるので、そこを大切にする気持ちで取り組んでいただきたい。そのためには、複合化について、議論はいつも平行線なので、具体的な案を出していただけるといいと思うが、青梅市としての考えをお聞きしたい。

（事務局）美術館は、小島善太郎美術館と青梅市立美術館の２つの要素を持っており、条例上、２枚看板の美術館になっている。開館当時は小島善太郎氏から寄贈いただいた作品と、毎年３千万円の基金で作品を購入し、徐々に収蔵品が増えてきたという流れがある。そのような中で建物の老朽化が進み、特に設備面、電気系統面、あるいはエレベーターなどの躯体以外の部分での不具合が出ている状況である。そういう点を含めると半年、１年休館して照明を含めて全て取り替えるような、大きな予算を組まないと先の進めない状況にある。そこは大きな課題であり、そう遠くない中で結論を出していかなければならないと感じている。委員の皆様からいただいたご意見を市長また財政当局に伝える中で、特に人命にかかわるようなエレベーターの問題もあるので、教育委員会として、また文化課として一つの方向を講じていきたい。

閉　会